

■ 心身機能・身体構造 (Body Functions & Structures)

下肢に浮腫あるも、胸・胸部・四肢・膝蓋外・アキレス腱反射に異常なし

■ 活動 (Activities)

食事の準備は自分でできる。ADLは自立(日常の散歩程度は毎日可能)。家では、お菓子を食べながらテレビ視聴が好きで運動不足気味

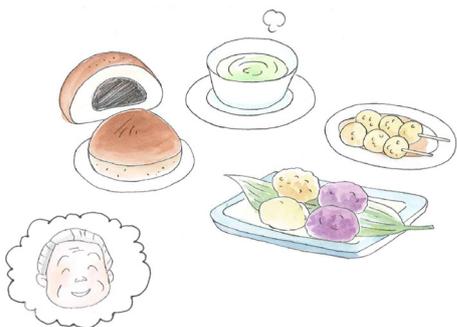
■ 参加 (Participation)

サークル活動への交流やデイサービスなどへの積極的参加への誘き



生活機能の評価は、表のようになっていきます。

10



お菓子などの間食が多く、好物は、アンパン、ぼた餅、団子などです。

11



Aさん自身は、認知症の自覚がありません。このことが、夫の介護への不安を助長しています。

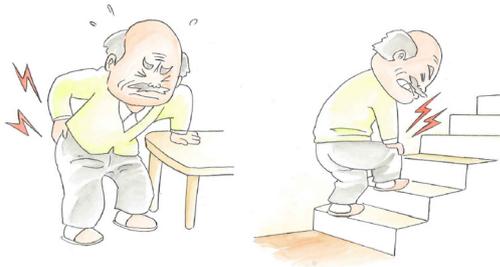
12

Series of horizontal lines for writing notes, corresponding to the text blocks on the left.



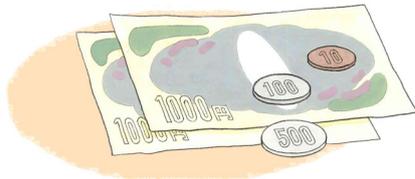
軽度認知症がありますが、本人は、楽しく、のんびりと過ごしたいとのことです。夫は、今より認知症が重症化した場合、面倒をみていけるかの不安を抱えています。そのため、息子と娘や社会資源の支援を求めています。

13



主たる介護者は夫です。その夫は、日常生活には支障はありませんが、高齢のため足腰が弱っています。夫がAさんの面倒をみられなくなったときは、子供の支援も必要になります。

14



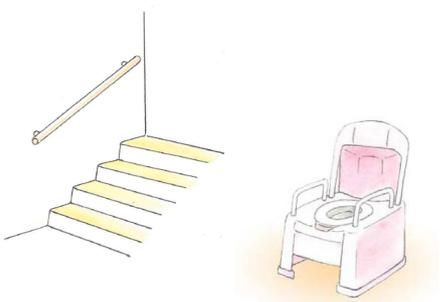
Aさん夫婦は、年金生活です。二人合わせての年金は、年額360万円です。

15



現在は、福祉制度を全く利用していません。

16



現時点では、家屋の改造や介護用機器の利用を考えていません。

17



B市の郊外で農村地域と住宅地域の境界辺りに住んでいます。近隣には、スーパーマーケットやバス停、郵便局、銀行などがあり、交通や生活の利便性は良い地域です。医療機関はバスで15～20分くらいの距離に総合病院があります。地域では三世代同居や持ち家世帯、核家族が多く、昔からのつながりや付き合いもあります。18



QOL向上を目指す専門職間連携教育用教材

高齢者糖尿病

制作著作 Copyright © 2011, 2019
「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」
(文部科学省 平成21年度 戦略的大学連携支援事業採択事業)
新潟医療福祉大学・埼玉県立大学・札幌医科大学・首都大学東京・日本社会事業大学

原案 Portions Copyright © 2011
渡邊榮吉・星野恵美子(新潟医療福祉大学)

19
